



海から考える地球・環境・平和 ～平和と地球を守るための憲法九条～



講師：武本 匡弘（プロダイバー・環境活動家）
NPO法人気候危機対策ネットワーク代表

持続可能な環境保護運動も平和運動も同じ

どちらも地球を救うために、声を上げ続ける活動である。だから、世代を超えた連帯が必要！

- 日時 **8月21日(日)** 14:00～16:00（開場13:30）
- 会場 **逗子文化プラザ なぎさホール**（京浜急行「逗子・葉山」駅より、徒歩2分
JR[逗子]駅より、徒歩5分）
- 参加費 **700円**（当日、会場受付にてお支払いください。）
（高校生以下無料）
- 問い合わせ ・富塚(046-878-6044) ・岡登(080-5655-2183)
メール rsh29194@nifty.com

参加されるみなさんへのお願い

感染防止のため、ご理解、ご協力をお願いいたします。

事前に裏面の用紙に氏名・電話番号を記入し、切り取って受付にお出しく下さい。

（取得した個人情報は、保健所等公的機関から提出を求められた際のみ使用し、それ以外には使用いたしません。）

- ・会場内では、マスクの着用をお願いします。
- ・新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止する場合があります。

主催：逗子・葉山九条の会

後援：神奈川みなみ医療生協 NPO法人気候危機対策ネットワーク

環境と平和・海から見た地球 ～ 気候正義と核廃絶平和運動 ～

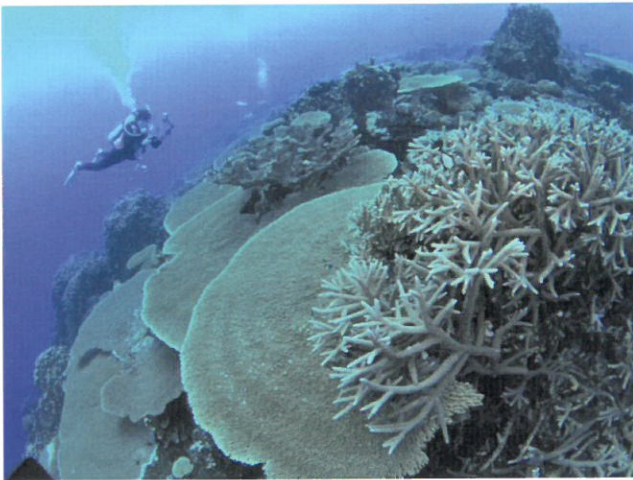
30数年、プロダイバーとして、海と向き合ってきましたが、海洋環境の劇的な変容は留まる事ありません。水中世界を中心に、環太平洋沿岸の海を見てきましたが、太平洋の真ん中辺りの状況はどうなっているのだろう？と考え、6年前から自ら操船したヨットで探査・国際交流などを目的に航海を始めました。

ヨットでの航海は「気候変動」による海・空・風の変化がただならないことを私に伝えてくれました。そしてプラスチックのゴミだらけの海！正に太平洋はゴミだらけ！でした。

航海距離は6年間で29,000キロ、航海日数は延べ270日間におよびます。



激戦地だったパラオ諸島 ペリユリュウ島 今はプラごみだらけ



被ばくの島 マーシャル諸島の造礁サンゴ(20年程前)

これらの報告等に加え、40年間撮影した水中映像等と共に、一人一人が何をしたらよいのか？という事を考えたいと思います。

そして、核廃絶、平和への願いと気候危機へ立ち向かう運動とは同じであるという認識のもと、連帯への道筋を探りたいと思います。

自分の目で見てきたこと、体験した事を伝え、知ってもらう事が自分の使命であると認識しています。

何より「知る事が希望」なのです。



武本匡弘 (たけもと まさひろ)

プロダイバー 環境活動家 NPO法人気候危機対策ネットワーク代表

1985年 ダイビング会社設立。プロダイバーとしてのキャリアは約40年、主に環太平洋の海洋環境の変化等を記録し続ける。同時にこの間、4団体の環境NPO設立に関わる。

2015年より気候変動・海洋漂流ごみの探査等を目的に「太平洋航海プロジェクト」を開始

自ら操船するヨットによる航海日数は、延べ270日 航海距離は15,500マイル(29,000 km)

・日本サンゴ礁学会会員 ・(財)第五福竜丸平和協会 協力会員 ・グリーンピースジャパン アンバサダー

----- ✂ ----- 切 り 取 り 線 ----- (事前に切り取って、お持ちください。)

連絡先記入用紙

氏名

電話番号
